

●景観形成の目標像

真名川ダム上流域溪流環境整備計画において、水辺エリアとして位置づけられており、水辺環境の維持を図る。

●基本的な考え方

①周辺の景観等への配慮の考え方

生態系保全の観点から必要最小限の伐採となるよう努めるとともに、堰堤袖部は極力覆土して自然回復に努める。

●具体的な方針

堰堤袖部の覆土または土砂部法面の緑化を考慮した設計に努める。



大雲谷第三堰堤

カミ川堰堤

1 細ヶ谷川堰堤



堰堤袖部の覆土(大雲谷第三堰堤)

【坂ノ下第3砂防堰堤】

●景観形成の目標像

周辺は、山林地域であり、自然景観および周辺環境との調和に配慮する。

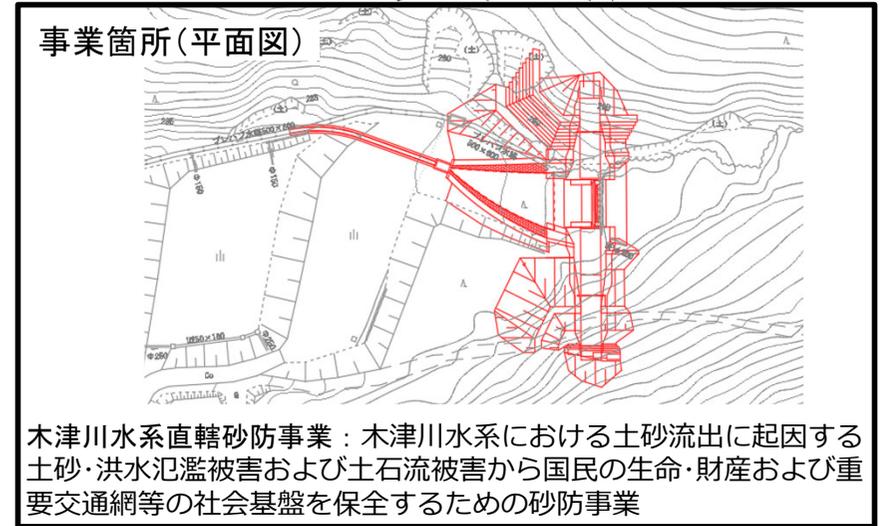
①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
特になし。

②細部設計、材料等の選定の考え方
視認性の低さを考慮し、堰堤本体には直接景観整備を行わず、通常のコンクリート打設工とするが、堰堤周辺の樹木の繁茂や切り土法面の緑化によりコンクリート部を遮蔽する。
鋼製スリットの色彩について周辺景観との調和に配慮する。

(事業前)



(事業後)



● 景観形成の目標像

周辺の自然景観と調和した自然な水辺空間を図る。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

自然の水辺らしく高水敷、水際部においてなめらかに連続する掘削断面になるよう配慮した。

【位置図】



(事業後)



(事業前)



事業箇所(平面図)



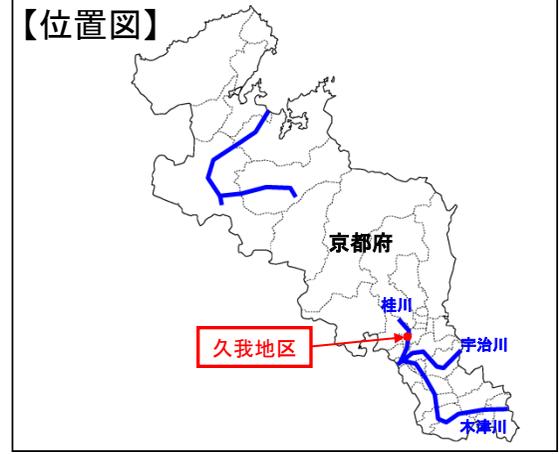
(施工概要)



● 景観形成の目標像

周辺の自然景観と調和した自然な水辺空間を図る。

- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
自然の水辺らしく高水敷、水際部においてなめらかに連続する掘削断面になるよう配慮した。



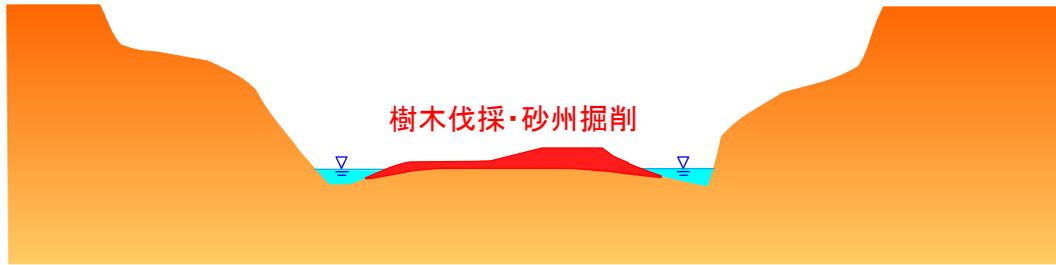
(事業後)



(事業前)



(施工概要)



● 景観形成の目標像

現在の河川景観を保全する。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

堤防法面・低水護岸部は、散歩等、周辺住民等を含めた一般自由使用者等にも配慮し、護岸形式や使用材料の統一を図る。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

連節ブロック(ダイヤカット)を採用し、存在感を低減させることで周辺景観との調和を図る。

■ 位置図



揖保川直轄河川改修事業【中井・末政地区】:
堤防整備、堰改築、河道掘削を行い、流下能力を向上させる。



●景観形成の目標像

現在有している比較的良好な河川景観を保全する。

●基本的な考え方

①周辺への景観等への配慮の考え方

連続している堤防において、川側の一定区間を盛土することによる景観への影響を極力回避する。

②住民等の利用を考慮した整備の考え方

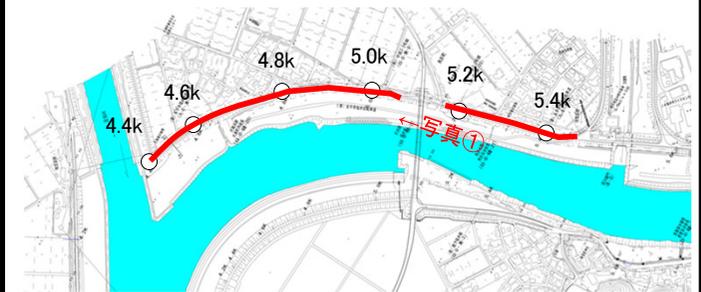
堤防天端の周辺住民等の散策や自転車道としての利用等、一般自由使用者等にも配慮する。

●具体的方針

盛土法面は既設堤防と同程度の法勾配とし、前後の堤防との調和を図り、起終点部は極端な確度で擦りつけず、なだらかに擦りつける

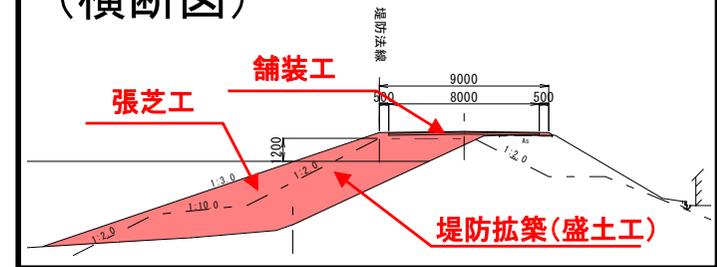


事業箇所(平面図)



九頭竜川直轄河川改修事業：
「洪水を安全に流すためのハード対策」として、当該区間の堤防拡幅(堤外側)を実施。

(横断図)



(事業前)



(事業後)



① 現況の法面と同勾配とし、周辺の自然景観と調和

● 景観形成の目標像

自然風景を生かし、地域と一体感を持つような景観形成を図る

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵は、景観配慮型防護柵のマスタープランに基づき選定を行い、形状を統一するとともに色彩はダークブラウンに統一し、連続的な空間を形成した。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵は、シンプルな形状とし存在感の低減をすることで、周辺の町並みと調和したデザインとした。

国道161号湖西道路は、大津市北中部に位置し、2車線で開通している延長15.8kmの自動車専用道路です。このうち真野IC～坂本北IC間(延長6.6km)は、平成27年度より、交通混雑の緩和、観光振興の支援等を目的とし4車線化整備を行ってまいりましたが令和7年9月27日(土)に4車線化の本格運用を開始しました



(事業前)



(事業後)



●景観形成の目標像

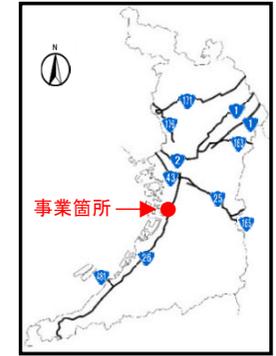
“現況の景観を損なわない”ことを念頭とし、周辺の景観と調和した景観形成

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

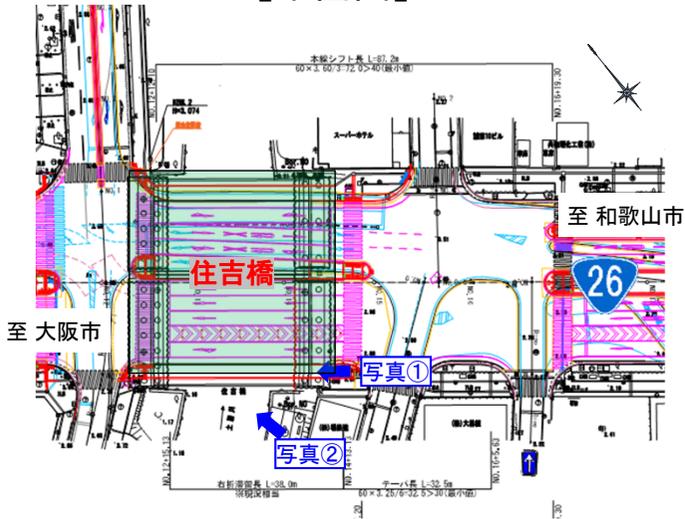
高欄及び防護柵は、統一感のある連続的な空間を形成するため、シンプルかつ透過性のある形状とした。

②細部設計、材料等の選定の考え方

橋梁桁の色彩は、周辺の景観と調和するよう、ライトグレーを採用。



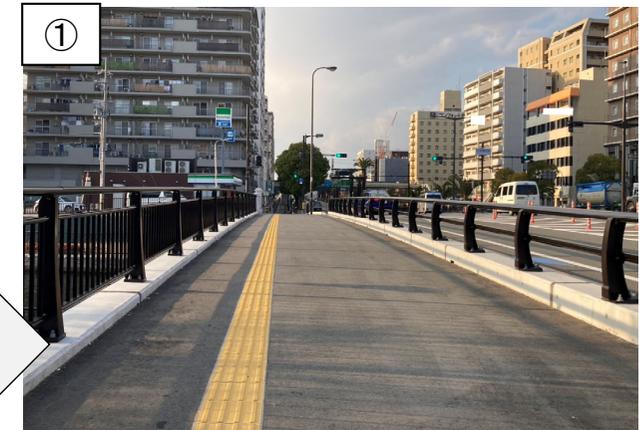
【平面図】



(事業前)



(事業後)



(事業後)全景



(事業前)



(事業後)



●景観形成の目標像

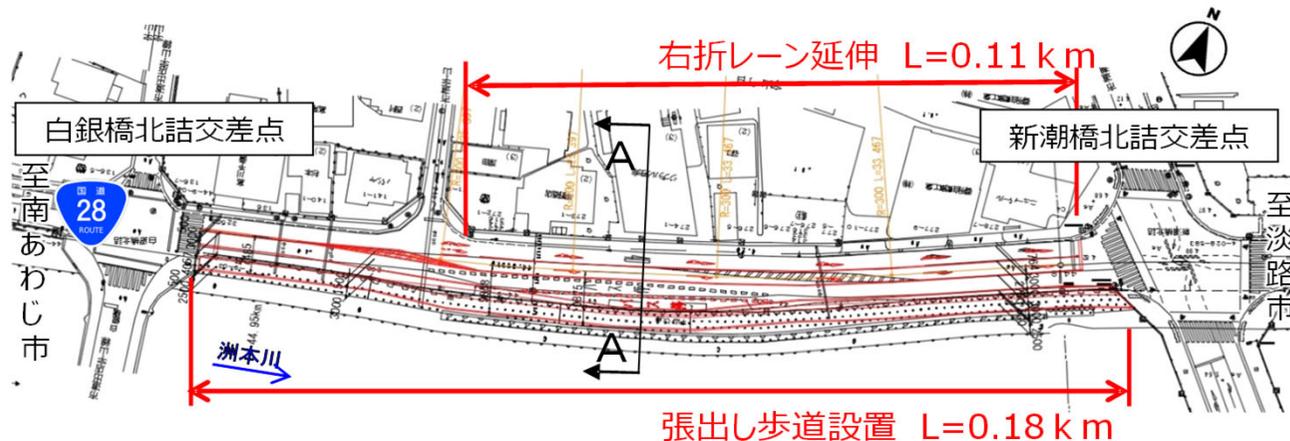
山間部及び海岸部に対する良好な眺望を享受しながら安心して走れる道路空間

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵は、部材構成をシンプルにし、連続性を感じさせると共に道路からみて透過性のあるものを選定した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵及び標識柱の色彩は、周辺の景観と調和するためダークブラウンで統一した。



国道28号新潮橋北詰交差点改良事業

当該交差点は、事故危険箇所を選定されており、右折待ちの車両追突事故が発生している交差点で、またバス停まで狭隘な歩道である。

本事業は、右折レーン延伸による事故対策及び、張出し歩道による歩行空間の確保を行うものである。

(事業前)



(事業後)



● 景観形成の目標像

家屋等や田園が混在する景観を基調とした道路空間の形成。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

当該地区は消雪区間であり融雪のため散水を行っているため、防護柵には水はね防止パネルを設置している。

そのため、防護柵の色はパネルと近い鋳造色とし、一体的な道路空間を整備した。

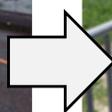
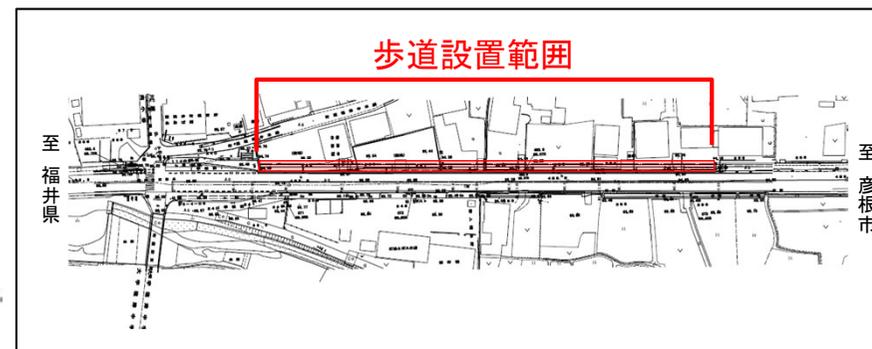
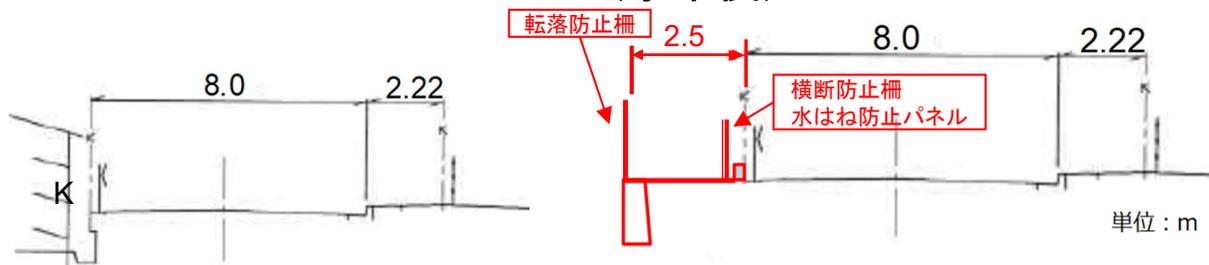
② 細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵は、シンプルな形状とすることで、安全に留意しながらも存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインとした。



(事業前)

(事業後)



●景観形成の目標像

周辺の市街景観と融和する歩道空間の整備を行う。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵の色彩は、周辺の町並み景観と融合させるためダークブラウンとした。

②細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵は、周辺の景観と調和に配慮するためシンプルな形状の製品を採用した。



【整備内容】

当該箇所は、交安法第3条に基づく下田小学校の通学路であるが、歩道が未整備であるため、通学児童の安全が確保されていなかった。

本事業は、歩道整備を行い、安全で安心して通行できる歩行空間を確保するものである。



(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

歴史的町並みと調和した歩行空間の整備を行う。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵は、歴史的町並みに配慮するため、擬宝珠付支柱を用いるなどの意匠を採用した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵の色彩は、眺望障害防止と自然景観への馴染みの観点から明度彩度の低いダークブラウンを採用した。



【整備内容】

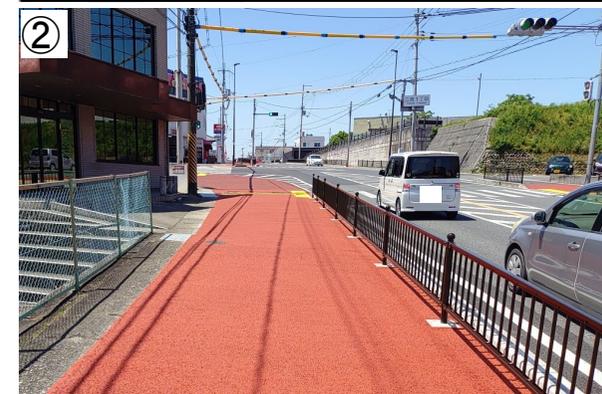
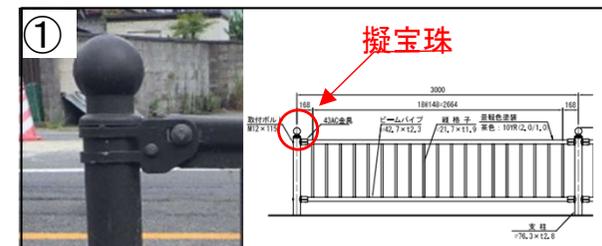
当該箇所は、交通量が多く、また国道に近接して民家等が連なっており特に見通しが悪い歩道未整備区間となっていることから、沿道からの出入時における接触、衝突事故が発生していた。

本事業は、歩道整備を行うことにより、安全で安心して通行できる歩行空間を確保するものである。

(事業後)



(事業前)



●景観形成の目標像

関連事業整備との融合に配慮した幹線道路空間

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

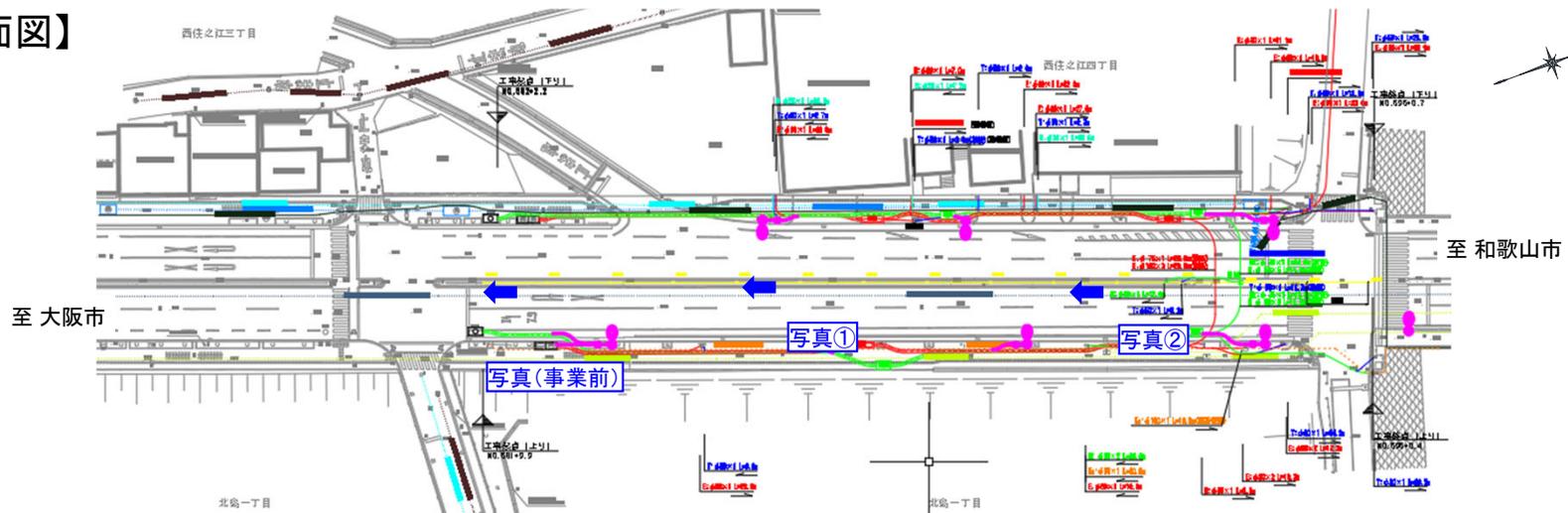
地上機器等の付属施設を集約して配置することで、歩行空間の確保と景観の調和に配慮した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

照明柱の色彩は、周辺の景観と調和するよう、ダークブラウン色を採用した。



【平面図】



(事業前)

(事業後)

(事業後)

